

人口

高齢者夫婦のみ世帯

- 高齢者夫婦のみ世帯の割合が10.2%と高め。
- 総人口は2025年に向けて増加した後、2030年に向けて減少する。

医療資源

高度：流出型

急～回復：自構想区域完結率

慢性期：流入型

高度急性期機能

北多摩南部に流出

(地域が考える患者像)
一般病棟7対1入院基本料
小児入院医療管理料
救命救急入院料 他

- ・高度急性期機能の約85%が7対1入院基本料
- ・全ての病棟を高度急性期機能としている病院も存在

病棟単位での機能分化の余地あり？

(自己申告した病院／H28報告)
・清智会記念病院 4床
・東海大学八王子病院 500床
・東京医科大学八王子医療センター 602床
・町田市民病院 12床
・日本医科大学多摩永山病院 401床

急性期機能

北多摩南部や神奈川県に流出しているが、自構想区域完結に近い

(地域が考える患者像)
一般病棟7対1入院基本料
一般病棟10対1入院基本料
一般病棟15対1入院基本料 他

- ・7対1及び10対1入院基本料の病床で合わせて3,000床超
- ・全ての病棟を急性期機能としている病院も存在

- ・家庭への退院割合は都平均程度の75.4%
- ・退院後に在宅医療を必要とする患者の割合が低い(3.9%)

元気に退院してるのか、退院後の状況を把握していないのか？

- ・病床稼働率は都平均程度(81.1%)だが、まだ余力がある状態
- ・退院調整部門をおいている病院が約7割

回復期機能

(地域が考える患者像)
回復期リハビリテーション病棟入院料
一般病棟15対1入院基本料 他

- ・回リハ病床が7割以上を占め、都平均(87.4%)と比べ、高い病床稼働率(92.3%)
- ・他の病院、診療所からの転院の割合が高い(49%)
- ・地域包括ケア病床140床のうち、60床が回復期機能を選択
- ・退院後に在宅医療を必要とする患者が4機能の中で最も多く1割を超える。
- ・退院調整部門をおいている病院が8割強

在宅に向けた調整は十分か？

慢性期機能

都内全域や神奈川県から流入

(地域が考える患者像)
療養病棟入院基本料
介護療養病床
障害者施設入院基本料 他

- ・医療療養病床が高齢者人口10万対で多く、北多摩南部や区西部を中心とする都内全域や神奈川県から流入
- ・都内で最も高い病床稼働率(93.1%)となっているが、介護療養病床の数が約4分の1を占めることから平均在院日数は長い(250.2日)
- ・他の病院／診療所及び介護、福祉施設からの入院が多い(46.8%)
- ・死亡退院の割合が都平均(32.9%)に比べ高い(39.1%)

看取りの機能を担っている？

サブアキュートはどの病床で対応しているのか？

その他

- ・2013年から2025年にかけて、75歳以上の医療需要の伸び率が都内で最も高い。(例 大腿骨骨折は199.9%、成人肺炎184.4%)
- ・脳卒中、成人肺炎、大腿骨骨折の完結率は、全て7割後半
- ・圏域内の市ごとの医療資源の状況に差がある

- ・退院調整部門を持つ病院の割合が高度～回復期機能は高いが、慢性期のみ45.7%と低い
- ・慢性期機能で死亡退院割合が高い

在宅医療等

※各区市町村の在宅療養推進協議会等で描く在宅像

※圏域としては、在宅医療等の内、訪問診療が2013年の1.66倍と推計

入院医療機関の状況

<不足している医療>

- ・終末期医療を行う医療機関
- ・精神の身体合併に対応できる医療機関
- ・認知症で徘徊する患者の入院受入れ先
- ・重症呼吸器疾患の受入れ
- ・休日、夜間の軽症者一次診療施設
- ・循環器疾患に対応できる病院
- ・地域包括ケア病床(町田市)

<充足している医療>

- ・精神科病床(一部の専門領域を除く)

<その他>

- ・不足する機能については、現在の連携によって補えばよい(町田市)
- ・構想区域内の地域特性の違いが大きすぎる

高度急性期機能

- ・不足しており、多摩市や他県に頼っている(町田市)

<地域が求める役割>

- ・精神の身体合併、認知症、アルコールなど東京ルールにて課題となる患者の従来以上の受入れ
- ・複数疾患の受入れ

急性期機能

- ・小児科、婦人科、呼吸器科、リウマチ科の急性期病院の不足(八王子市)
- ・精神疾患を持つ患者に対応可能な急性期病院の不足(八王子市)
- ・神奈川県への流出も著しい(町田市)

- ・透析や呼吸器装着等に対応可能な施設の不足

<地域で求める役割>

回復期機能

- ・冬期は満床となることが多く不足を感じる(八王子市)
- ・回復期リハ病床の不足(八王子市・町田市)
- ・精神疾患の患者への身体的リハを行える医療機関の不足
- ・不足しており、急性期からの連携がスムーズでない(多摩市)

<地域で求める役割>

- ・歯科治療体制の充実を図って欲しい

慢性期機能

- ・充足している(八王子)
- ・精神科医療における慢性期機能は空きつつある(日野市)
- ・不足している(町田市)

<地域で求める役割>

病院側

- ・在宅患者のためのバックベットの常に確保できるかが課題(日野市)
- ・レスパイト入院受入れにあたっての標準的なルールがあれば、連携先が増やしやすい(町田市)

在宅側

<急変・病状変化時の受入>

- ・重症心身障害患者の急性期の入院を受け入れて欲しい(多摩市)
- ・現在は顔の見える関係にて対応できており、緊急時の対応に苦労していない(町田市)
- ・急性期で受入先を確保することが難しいケースがある(町田市)
- ・状態悪化時の受入れが困難(日野市)
- ・病診連携がうまくいっているので問題なし(八王子市)
- ・病状急変時の受入れを積極的に行って欲しい(八王子市)

<在宅移行・退院支援>

- ・退院調整時に、患者・家族に在宅医療について正確に伝えて欲しい(多摩市)
- ・退院時担当者会議を積極的に開催して欲しい(多摩市)
- ・在宅から入院した場合、病状が安定したら速やかに在宅医療に戻って欲しい(多摩市)
- ・在宅から入院したが、退院時に高齢者施設に入所となった場合は、その旨説明して欲しい(多摩市)
- ・ターミナル期に入る患者については、早期に在宅医療の方向に連携して欲しい。(町田市)

<その他>

- ・退院時のみでなく、入院中の情報提供も欲しい(町田市)
- ・入院医療機関の受入れ状況、疾患での受入可否等の具体的情報が不十分(町田市)

在宅医療の課題(例)

- ・在宅医療を受ける側の課題として、家族の介護力(老々介護や認知介護)や独居の場合の対応
- ・在宅医療を提供する課題として、24時間対応や、多様化する患者ニーズへの対応、介護事業者との連携 など

※詳細は、訪問診療実施診療所向けアンケートの集計結果へ

地域の特徴

慢性期機能において、都内全域だけでなく他県からの患者受入れ



慢性期機能において平均在院日数が長く、死亡退院割合が高い



慢性期機能において、退院調整部門を持つ割合が低い



早期の在宅移行を求める地域の診療所の声

（論点1）療養病床が多く流入患者が多い中で、南多摩の慢性期機能が担うべき役割

具体的な議論の方向性(例)

- 退院調整機能の充実
- ターミナル期の患者を在宅医療へ移行する際の連携
- 自構想区域外の患者の円滑な退院調整と医療連携

地域の特徴

75歳以上の医療需要の伸び率が都内で最も高い



回復期リハ病床等回復期機能の病床が少ない



休日、夜間の軽症者一次診療施設が不足しているという声



急変時の受入れを積極的に行って欲しいとの声

（論点2）地域包括ケアシステムの構築に向けた、高齢化する地域住民の入院医療体制

具体的な議論の方向性(例)

- サブアキュート・ポストアキュートを担う地域包括ケア病床の整備
- 回復期リハ病床を含めた回復期機能の充実